

## あれ？話が同じなのに、どこが違うのかな？視点2

### 1. 単元名 倍の見方（4年生 9月）

### 2. 改善の動機・意図

わり算の学習の後に、「倍を求める」「比較量を求める」「基準量を求める」いわゆる割合の三用法を扱う学習である。ここで大切となるのは、これまで、「いくつ分」としてきた「倍」の意味を、例えば「5倍というのは、3mを1とみたとき、15mが5にあたることを表している」ととらえさせることであり、この「基準量を1とみる」が、今後の割合指導に大きく関わってくる。また、ここで扱う2本のテープ図とその下に数直線を合わせた図は初出であり、児童にとっては、どこが□かの理解が困難である。そこで、本実践では、扱う事象を3時間とも同一の事象とし、毎時間求める部分が違うという展開を考えてみた。

### 3. 授業の構想

#### 【第1時＝第一用法】

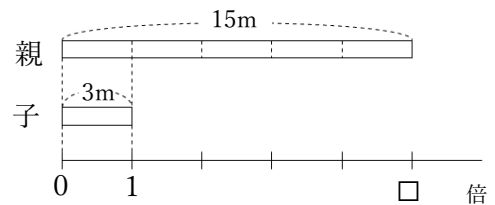
親のクジラの体長は15mで、子どものクジラの体長は3mです。親のクジラの体長は、子どものクジラの体長の何倍ですか。

C1  $15 \div 3 = 5$  5倍です。

T1 5倍って、この図のどこなのかな？

C2 ……？

T2 今日はこんな図を使って倍の意味を考えてみましょう。



#### <5倍ってどんな意味？>

5倍というのは、3mを1とみたとき、15mが5にあたることを表している

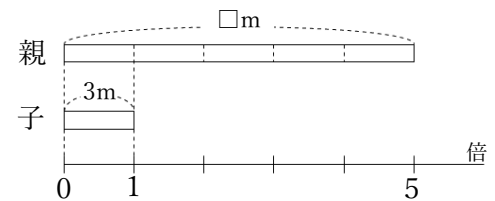
#### 【第2時＝第二用法】

子どものクジラの体長は3mで、親のクジラの体長は、子どものクジラの体長の5倍です。親のクジラの体長は、何mですか？

C1 あれっ？昨日の問題と似ているよ。

T1 昨日と同じ図に、この問題でわかっていることを書き入れてみましょう。

C2 □は親のクジラの体長（5倍にあたる大きさ）



#### <5倍にあたる大きさを求めるには？>

もとにする大きさに倍をかければいい

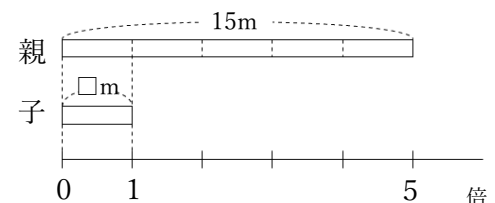
#### 【第3時＝第三用法】

親のクジラの体長は、子どものクジラの体長の5倍で、15mです。子どものクジラの体長は何mですか？

C1 今日も、クジラの問題だ。どこが違うのかな？

C2 図で考えてみよう。

C3 もとにする大きさが□だ。



#### <もとにする大きさを求めるには？>

もとにする大きさは、□を使ってかけ算の式に表してから、わり算で求める。